

平成25年度北陸地区国立大学学術研究連携支援報告書

研究グループ名	ICFを用いた知識共有による不登校診断・治療支援システムの改善 ～コード化とその解析～ (支援期間：平成24年度～平成25年度)			
大学名	所属		氏名	
富山大学	保健管理センター・教授、センター長		○斎藤 清二	
金沢大学	理工研究域電子情報学系・講師		○南保 英孝	
福井大学	大学院工学研究科・准教授 教育地域科学部・教授 教育地域科学部・准教授		○小越 康宏 三橋 美典 廣澤 愛子	
※ 各大学の研究グループ責任者の氏名には○印。				
その他の機関の構成員	機 関 名	所 属	職 名	氏 名
	日本学術振興会(福井大学)障害者職業総合センター	(教育地域科学部)	特別研究員・工学博士 研究員・心理学博士	小越咲子 武澤友広
成果概要	<p><b>研究目的と結果</b> 本テーマでは、金沢大学・南保らが行っている不登校児童の問診・治療データ解析とそれに関する知識、そして富山大学・斎藤ら、福井大学・小越らをもつ発達障害に関するデータと知識を融合し知識の共有化を図る。平成24年度には、上記の研究目的の実現のために、WHOによって制定されたICF-CY(国際機能分類・小児青少年版)を用い、不登校児童データに関する情報・知識と発達障害に関する情報・知見の連携のための準備を行った。平成25年度は、平成24年度の実績を受け、研究目的を実現するためのデータ収集と解析を進めた。</p> <p>具体的には、新たな不登校児童データ、発達障害に関するデータと知識、そしてICF-CYコードをデータベースに追加実装し、情報の連携の可用性を向上させた。また、不登校児童データとICF-CYコード、発達障害データとICF-CYコードのマッピング手法を構築した。</p> <p><b>活動実績</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 日本設備管理学会就労支援技術研究会における講演 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 南保英孝「不登校診断・治療支援に関する研究について」</li> <li>● 小越康宏「人間に関する様々な情報をICFでつなぐ研究と事例」</li> </ul> </li> <li>* 各種データのICFコードへのマッピングとその応用のための研究 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 発達障害データのデータベース化とICFへのマッピング(富山大学) 発達障害の診断、治療に関するデータをデータベース化し、ICFコードへのマッピングを行った。</li> <li>(2) 不登校治療経過データのデータベース化(金沢大学) 昨年度は、不登校の初診時に得られた問診票データをデータベース化したが、今年度は、治療経過を記録したデータをデータベース化した。</li> <li>(3) 日本語ワードネットによる同義語をもちいた不登校問診データからICFコードへの自動マッピング(金沢大学) 昨年度の成果である問診票データのデータベースと、同義語の検索が可能である日本語ワードネットを用い、問診票とICFコードの自動マッピングを行うシステムを開発した。現時点では、精度が不十分であるが、今後アルゴリズムを改良し精度を向上していく。</li> <li>(4) ICFコードの評価点を用いたICFの推論への利用の試み(福井大学) ICFコードの下位項目の評価点の数字を適用度という形で推論に利用する手法を考案した。今後ICFコードに各種項目がマッピングされた後、推論等に用いるために必要となる技術である。</li> </ol> </li> </ul>			
獲得した外部資金	なし			